

## 【資料 1-2- ⑥】総合人間学部 入学から卒業まで

学部案内より転載

## 入学から卒業まで

## 入学試験(120名)

## 一般選抜(前期日程)

第1段階選抜は、大学入学共通テストの成績等により行います。

第2段階選抜は、文系型試験(定員62名)と理系型試験(定員53名)に分けて行います。

## 特色入試

提出書類、能力測定考査、及び大学入学共通テストの成績を総合して選抜(定員5名)を行います。



## 専攻の決定

総合人間学部は本学他学部にもみられない、文理にまたがる広い学問分野をカバーしています。一般選抜「文系」または「理系」、特色入試「総合型選抜」という入学試験のどちらで受験したかにかかわらず、本学部学生はその幅広い分野をカバーする諸講座のどれにでも進むことができます。ただし入学後1年間は、どの講座にも属しません。幅広い学問分野に触れ、自分の専攻したい学問分野をじっくり見極めた上で、2回生進級時に主専攻を決めて、講座に属します。専攻分野をこれほど広い範囲から選べる学部は、本学ではほかにありません。



## 副専攻制度

総合人間学部では、広い視野を持ち創造性豊かな人間を育成する目的で、主専攻のほかに、副専攻の制度を設けています。副専攻は、各自が所属する講座の専門分野以外の特定の学問分野を系統的に履修する制度です。これによって、主専攻以外の分野においても専門的知識と深い素養を身につけることができます。副専攻を履修したことに対しては、学士の学位記とは別に副専攻名を記した認定書が発行されます。



## 卒業論文・卒業研究と「研究を他者に語る」

4年間の学修の集大成として、指導教員の指導の下、卒業論文あるいは卒業研究の作成がなされ、その発表会がもたれます。またこれとは別に、その研究成果を自分の専門分野とは異なる分野の複数の教員や学生に対して説明することが義務づけられています(「研究を他者に語る」)。専門外の人に自分の専門をわかりやすく語ることが総合人間学部の教育では重視されていますが、この課題はその総まとめといえます。卒業時のこれら諸課題を完成することで、学生は専門分野の研究・理解の力を養うとともに、深い思考力を身につけ、専門外の人々への説明の能力を培います。これらの能力は、卒業後の人生の頼もしい武器になることでしょう。



## 卒業後の進路

## 大学院進学

総合人間学部の大学院進学希望者の多くは、直結する「人間・環境学研究科」を受験して進学しています。

2024年度からの総合人間学部の組織改革により、総合人間学部は10の講座に再編され、それによって人間・環境学研究科の10の講座と対応するようになりました。その結果、学部と大学院でのシームレスな学習・研究が可能になりました。

なお、本学の他の研究科や他大学の大学院に進学することもできます。

## 就職

総合人間学部の卒業生は、主専攻の履修だけでなく、副専攻の履修や、幅広い分野の学部科目を履修することにより、広い視野と柔軟な思考力を備え、総合的な判断力を身につけているものと、社会から期待されています。また、卒業生は、のびやかな個性と独創性が高く評価され、文系から理系に至る幅広い職種に就職して、その社会的期待に応えています。国家機関、国際機関、地方自治体、民間企業等での活躍の道が、大きく開かれています。